



一般社団法人  
大学女性協会  
東京支部会報

- TOMOSHIBI -  
Journal of Tokyo Chapter  
Japanese Association of  
University Women  
<https://www.jauw.org>

## 快晴の下 和やかに支部総会開催

初夏を思わせる2025年4月19日(土)、国際交流留学生プラザ・お茶の水女子大学同窓会コモンズにて、東京支部総会が開催されました。会場設営もスムーズに運び、定足数を満たして総会が成立しました。

まず、鷺崎支部長が、新入会員が8名増えたこと、「ともしび第77号」投稿特集『戦後80年平和を考える』に4名もの一般投稿があったこと、見学会、講演会等、2024年度の事業報告とともに、会員の皆様のご協力への感謝を述べられました。

続いて長谷川瑞穂会長が支部総会開催を寿ぎ、戦乱の続く今、「ともしび」投稿特集を興味深く読まれたこと、東京支部独自の奨学金事業、万博参加における神戸支部の尽力等に感謝を表されました。

議事は滞りなく進行し、議案は承認されて総会は無事終了。

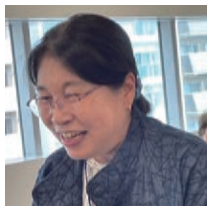
その後チャレンジ奨学生、石橋佑季さんが、お忙しい中駆けつけてくださり、研究の現況、展望などをスピーチされました。

また、加納孝代元会長による、ミヤンマー大地震支援募金の呼びかけに応じて、22500円もの義援金が集まりました。最後に総会に出席された新入会員3名、転入会員2名のご紹介があり、午前の部は終わり、親睦会へ。昼食は前半の折詰弁当とお茶、花園饅頭で、和やかに会員同士の親睦を深め、午後の「小倉百人一首をうたう」コンサートへと続きました。

(支部委員 鈴木公江)



上：第3部にご出演の  
伊能美智子さん(右)  
竹中佐記さん(左)



伊勢真理子さん



武内善以さん



徳山美沙子さん



秋光正子さん



植原映子さん

右：支部総会に出席された  
新・転入会員の皆さま

### ◎東京支部奨学生 安価でサステナブルな 建材の開発を目指して

東京大学大学院  
工学系研究科建築学専攻修士課程2年  
石橋 佑季さん

2024年度東京支部奨学生の石橋佑季さんが、感謝の言葉と共に、研究の現状、抱負について語りました。

「私は東京大学大学院工学系研究科建築材料研究室に所属しております。4年間の実務経験を経て、材料とデザインは未だ融合していないという側面を強く感じ、自身でその専門性を獲得し、他者に提供したいと思に至りました。現在は廃棄物や未利用の天然資源を用いた建築材料の研究をしています。応募時の計画とは異なるのですが、特に、所属研究室の強みでもある無機材料に焦点を当てています」とのこと。

秋には第一子誕生。これから子育てと仕事の両立が大変だと思いますが、「女性の社会進出のモデルケースとしても頑張っていきたい」と述べられました。会場からは大きな拍手が送られました。



## 東京支部総会第三部

## 伊能美智子と

## 小倉百人一首をうたう



支部総会第三部は、ピアノ演奏家、作曲家、音楽指導者としてご活躍の伊能美智子氏（東京支部会員）と、ソプラノ歌手、竹中佐記氏をお迎えしてのコンサートです。

伊能氏は、小倉百人一首や万葉集に自ら曲を付け、それを歌手の方が歌唱するユニークなコンサート活動を展開。洋と和の音楽の融合をはかる独自の活動が、文化庁長官表彰をうけるなど、高く評価されています。

今回のコンサートでは、お二人からの要望で、事前に百人一首の人気アンケートを実施。その中からベストシックスを歌っていただくことになりました。

選ばれた六曲は百人一首の歌番順に、最初はソルフェージュ風にスタンダードに演奏。続いて、その歌の推薦者が前に出て、何故、自分はその歌が好きか。その歌に込めた想いを語ります。最後に、推薦者の想いに応えて、再び同じ曲が、今回限りのアレンジで演奏されるという趣向です。伊能氏の緩急自在な演奏と、竹中氏の洗練された歌唱に、一同が酔いしれる午後の一ときでした。

伊能氏からは演奏の前に、自分はその歌をどのように解釈し、それを表現するためにどんな工夫をしたかなども説明され、ピアノに特に素



養のない筆者でも、それぞれの曲想の違いを存分に楽しむことができました。最初は戸惑っていた歌の推薦者六名も、会場の和やかな雰囲気ですっかり緊張もとけ、自らの思い出を熱く語ったのも印象的でした。  
雅な時間もあったという間に流れ、ラストは、伊能氏、作詞・作曲の「さよならを言わないわ」を、全員で熱唱。  
演奏者と観客の心がふれあう素晴らしいコンサートとなりました。

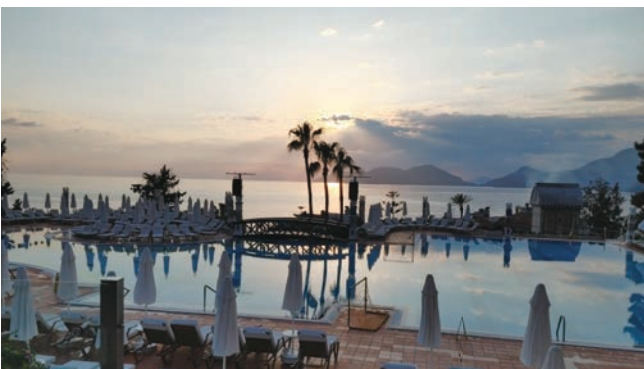
（支部委員 安東桂子）

## トルコ訪問記

秋光 正子  
JAUW副会長

澄んだ青空、そびえる岩山、そして空の色をたっぷり吸った青い地中海。4月末東京から丸3日、夫と私はトルコ南部ダラマン郊外の国際会議場にたどり着きました。国際会議で夫にある賞を渡したいとの知らせが届いたのです。高齢なので迷いましたがついに決心して出かけてきたのでした。会場では沢山の方々非常に温かく迎えて下さり、夫の嬉しそうな笑顔を見て遙々ここまで来て良かったとしみじみ思いました。会議では新しい情報が得られて私たち二人にとっても有意義な時間

を過ごすことができました。会議場は広大なリゾートホテルの一角に位置しています。エリアにはビーチもプールも巨大なダイニングもあって沢山の家族連れの人々が非日常を満喫していました。しかし門の外は岩山の合間に小さなモスクを中心とした集落が点在する素朴なトルコの風景です。畑ではオレンジやオリーブが栽培されていました。帰路、イスタンブールでトプカプ宮殿を訪れました。隣がブルーモスクです。モスクを訪れる人々の多さは息を呑むほど。人々の信心の深さと強さを感じ圧倒されました。願い別に祈り分けるわが身を反省する風景でした。



ダイニングから望む夕暮れの地中海



賞を手にした記念写真  
秋光純さん Koralay教授 秋光正子さん

2025年東京支部総会報告

2025年東京支部総会を、4月19日に、国際交流留学生プラザで開催した。出席者数29、議決権行使書数73、計102、支部規約に基づき会員数176の5分の1(35)を満たし、総会は成立した。

第1部は長谷川瑞穂会長からご挨拶を頂き、議事に入った。第1号議案、第2号議案ともに反対なしで承認された。報告事項1、報告事項2も特に異議なしで、議事は終了した。皆様のお陰で経常収益が多く、予算以上の期末残高を次期に繋ぐことができた。続く2024年度東京支部奨学生石橋佑季さん(東京大学大学院2年)のスピーチでは、サステイナブル建材の研究に意欲的な彼女に、一同エールを送った。

第2部懇親会はお弁当と茶菓を楽しみつつ、新しい会員の紹介と挨拶や、つもる話も弾み、会員同士の親睦が深まる時間となった。

第3部「伊能美智子と小倉百人一首をうたう」は、作曲された伊能美智子会員がピアノを演奏され、竹中佐記氏が歌われた。プログラムの6首を推薦した委員がそれぞれの思いを語った。30年前のIFUW(現GW I)横浜大会での伊能様のご活躍を懐かしみ、感慨深いコンサートとなった。

鷲崎千春支部長以下委員12名と支部担当理事 遠藤理枝 会計監査2名は、今年度も頑張ります。

(書記 坂上栄美子)

2024年度東京支部事業報告

- 4月20日 支部総会 懇親会
講演会 講師室伏きみ子会員
「『生命科学』と共に歩んだ50年」
6月14日 見学会「NHK放送博物館&ちょっと贅沢なランチ」
6月~9月 JAUW国内奨学生 東京支部圏募集、選考、本部へ推薦
7月22日 「ともしび」第76号発行
11月8日 講演会(国内奨学委員会共催)
講師伊集院葉子会員 「古代女性の活躍と采女」
1月25日 東京支部奨学金授与
石橋佑季(東京大学大学院修士課程1年)
3月6日 「ともしび」第77号 投稿特集「戦後80年 平和を考える」発行
随時 ホームページ更新・メールマガジン登録者に配信
サークル 水墨画教室・映画クラブ
寄付活動 中野区視覚障害者福祉協会へ使用済み切手送付

2025年度東京支部事業計画

- 4月19日 支部総会 懇親会
コンサート
「伊能美智子と小倉百人一首をうたう」
伊能美智子会員 竹中佐記氏
7月7日 警視庁本部見学ツアー
7月22日 「ともしび」第78号発行
11月 講演会(予定)
3月 「ともしび」第79号(投稿特集「捨てる? 捨てない? 断捨離考」)発行

奨学金事業、その他は、2024年度に準ずる。今後の予定は決まり次第広報する。

2024年度東京支部決算(正味財産増減計算書内訳表)
(2024年4月1日~2025年3月31日) (単位:円)

2025年度東京支部予算(正味財産増減計算書内訳表)
(2025年4月1日~2026年3月31日) (単位:円)

Table with columns for 科目, 実施事業, 小計, 事業5, 事業6, 小計, 支部計, 備考. It contains detailed financial data for both 2024 and 2025, including income, expenses, and asset changes.

資金残高(2025年3月31日現在)

Table with columns: 現金, 銀行名, 預金額. Values: 232, 三菱UFJ銀行, 2,617,155.

会計 菊地 康子 森川 淳子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明いたします。

2025年3月21日

会計監査 早川 恵子 印 会計監査 木村 和子 印

## 2023年度 東京支部国内奨学生(チャレンジ奨学生)レポート

## 人と人のつながりを



明治大学大学院  
国際日本学研究科卒業(2025年3月)

## 浅野明莉

私が大学院への進学を決心したのは、東日本大震災及び福島第一原発事故からの復興に向け、岩手県、宮城県、福島県の3県の中間支援を行うNPOで働いたことがきっかけでした。中間支援とは、行政や企業、NPO、地域住民など多様な立場の人々の連携促進を行う仕事です。私は災害発生から9年が経過した2020年から携わりました。沿岸部の町並みは復興に向かっていますが、見えにくい社会課題があることを徐々に理解していききました。ある時、復興に携わるキーパーソンへインタビューを行いました。地域には人と人のつながりが緩やかに広がっていることが見え、つながりがあることは人々の生活や、逆境に立ち向かう際に大きな影響があるのではないかと感じ、大学院では人と人のつながりに焦点を当てて研究をし

ました。

私は日本語教育にも関心があったことから、日本で難民が自立する際にどのようなように人と人のつながりを育んだのか、つながりの形が時を経てどのように変化したのか研究しました。インタビューに応じていただいた研究協力者には大変貴重な機会をいただきました。

大学院では、仲間にも恵まれ、あらゆる関心事について議論することができました。それらは、すぐに解決できる物事ではないことがほとんどでしたが、答えがない事を考える仲間ができたことが自分自身にとって想像以上に大切なものを得たように感じます。修士論文を書くにあたって、時には悩み落ち込むこともありましたが、それすらも豊かな経験だったと思える充実した日々でした。

卒業後は、行政の仕組みに情報技術の力で円滑にアクセスできるよう促進する仕事に取り組んでいます。人と人のつながりは対面に加え、オンライン上へも広がっていることから、両方のつながりに携わることができたらと考え就職しました。

仕事の傍ら、ウクライナ避難民に向けた日本語教育や、3月28日に発生したミャンマーの地震に対する支援プロジェクトに携わり、当事者の目線に触れる機会を意識しています。こうした活動を通して、社会の仕組み根本を問うことや、あらゆる視点で物事を見つめる姿勢を忘れずにこれからも精進していきたいです。

2025年度の東京支部奨学生を募集しています。皆様からお声がけください。

## 一般社団法人大学女性協会 東京支部奨学生(通称 チャレンジ奨学生) 2025年度募集要項

一般社団法人大学女性協会東京支部は、企業、官公庁などでの就労の後、大学または大学院で勉学・研究中の女性・性自認女性に奨学金を支給する。卒業・修了後は再び就業により広く社会に貢献することを条件とする。

## I 応募資格

23ヶ月以上の就労(アルバイトを除く)の後、会員の在住する都道府県に本部を置く文部科学省の認可する大学の3年次または大学院1年次に在学する女性・性自認女性とする。卒業または修士課程修了まで同大学・大学院に在学することを条件とする。就労以前の学歴は問わない。

## II 支給額および募集人数

奨学金20万円を1名に1回支給する。返還は求めない。

## III 応募提出書類

(1) 一般社団法人大学女性協会東京支部奨学生応募書

1. 所定の様式による
2. 応募理由は、全体で1000字程度
3. 指導教員は、主な履修科目の指導教員であること

(2) 履歴書・自己紹介書

1. 所定の様式による

(3) 大学の在学証明書

備考 (1)(2)は、ホームページからダウンロードし、印字可。

## IV 応募方法および締切り

応募者は応募書類を在学大学へ提出する。大学は一括して2025年10月16日(木)(必着)までに大学女性協会東京支部に提出する。

## V 選考結果通知

本人および大学学長に11月末までに通知する。

## VI 支給

1月予定。別途連絡する。

## VII 奨学生の義務

卒業・修了後2ヶ月以内に「勉学・研究の概要と現況」(800~1000字)を大学女性協会東京支部に提出すること。提出のない場合は、奨学金の返還を求められることがある。「勉学・研究の概要と現況」は、支部会報「ともしび」に掲載する。同封会報「ともしび」参照のこと。

## 【問い合わせ先】

一般社団法人大学女性協会東京支部

支部長 鷺崎千春

〒160-0017

東京都新宿区左門町11-6 パトリシア信濃町テラス 101

Tel:03-3358-2882 Fax:03-3358-2889

Email:tokyobranch@jauw.org URL:https://www.jauw.org



ホームページでもご案内しています。このQRコードをご活用ください。

## 丸山庸子さまを偲んで

鷺崎千春



1997年全国セミナーでの丸山庸子会長（当時）

丸山庸子さまの訃報をご家族から頂いて、心からご冥福をお祈りいたします。丸山さまは1996年度から1997年度にJAUW会長をお務めになりました。私はちょうどこの時期に広報委員をしておりました。女性の地位の向上、男女共同参画社会に大変期待を寄せられて、全国セミナーでは「女性と職業―その障碍と支援について」のテーマを掲げました。当時の丸山会長の原稿に書かれた、グラスシーリング、ステイキーフロアーなど私には聞きなれない言葉に困惑しましたが、分かりやすく丁寧にご説明くださったことは、忘れられない思い出です。ご息様ご一家と同居され、最期の時もご家族に見守られて、お幸せでいらしたとことと拝察しております。

お嫁さまが、ご葬儀に「思い出コーナー」を作りたく準備をされている時に「文部科学省社会教育功労者」の表彰状が出てきて、それについてのお尋ねがありました。丸山さまと親しくなっていて、授賞式にも出席された阿部幸子元会長にご連絡をしましたところ、お心の籠ったお悔やみ状と、これまでの丸山さまの大学女性協会での活躍の資料をご遺族に送っていただきました。思い出コーナーへ何よりの贈り物となり、丸山さまもフィナーレを喜んでくださったことでしょう。

丸山庸子さまは東京支部長も1980年から1981年にお務めになりました。10年前発行の『あの頃わたしは』には、東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）に入学直後の小淵沢の校舎で、終戦の詔勅を聞かれたその当時の状況を、詳しく書いてくださっています。

これまでのご尽力に深くお礼を申し上げて、お別れのご挨拶とさせていただきます。

## 第14回定時会員総会・全国総会を振り返って

支部長 鷺崎千春

5月18日（日）、新潟の万代シルバーホテルにて、第14回定時会員総会が開催された。出席者72名、議決権行使書提出者297名。長谷川会長から万全の準備を整えてくださった新潟支部の皆様への感謝と、新潟の文化、人食に触れ、心豊かに3日間を過ごしましょうとのご挨拶があった。第1号議案、第2号議案が承認され、各担当理事から事業報告がなされた。今年度、新しく選任された濱松若葉総務理事、渡部由紀子会計理事の理事会での活躍に期待したい。

午後は全国総会へと移る。構成作家&番組プロデューサーの南加乃子氏による公開講演会「ゆかりの地・新潟でドナルド・キーン先生を想う」が、開催された。ニューヨークから移築された書齋や書籍、ケンブリッジ訪問に同行された南氏の力作「ドナルド・キーン95歳心の旅（2017）」の映像等を鑑賞した。引き続き

「移行法人終了後に向けて」では、「次世代につながる会から宮下摩維子さんが「法人」とは何かについて語り、監事の木口京子さんから「公益目的支出計画」の考え方と現状について、奨学金・研究奨励担当の今野美智子さんからJAUWの大きな柱である奨学金事業の経過や内容について説明があった。最後に元会長・Jランプの会の中村久瑠美さんから、これまでの歴史の概要、文部省の国庫補助事業や国際会議の国内開催などのお話があり、先輩方



新潟支部より提供

がいかんにかん力されて来たか、それをどう引き継いで行けばよいか、また方向を模索中とのことだが、みんな考えている良い機会となった。

懇親会では、「こはく会の皆さまが民謡と踊りを披露くださった、佐渡おけさの身振り手振りを習うが、動きが洗練されていて難しい。ご当地ならではの凝った美味しいお料理をいただきながら、各テーブルで話が弾んだ。

総会に先立ち17日に行われた支部長会では4つのグループに分かれて、意見交換。神戸支部からはEXPOのスイス館を8月7日に全館貸し切りで使用できることになり、上川陽子衆議院議員（静岡支部）の講演が開催されるので、是非参加してほしいとの依頼。京都支部からは高齢で参加が難しくなった先輩にお話のチャンス、それが生き甲斐にも繋がるはずとの声があった。

最終日19日は研修旅行、40名の参加。初めに農業・食文化の継承と新しい価値づくりに取り組んでいる「そら野テラス」を訪問、越後姫という名の幻の苺をいただく。このテラスからの眺めは今が一番美しいと聞き及び、写真に納める。次は三条市立大学へ。2021年4月に開学した工学系単科大学で、燕三条の多くの物づくり企業が学生の学びを支えている。初代学長、バンガラデッシュ生まれのアハメド・シャハリアル氏が流暢な日本語でご説明くださる。実学志向の学びに徹し、この3月第1回卒業生を企業に送り出したとのこと。次に2000年にわたり伝統技術を継承している、無形文化財鋳造銅器玉川堂（ぎょくせんどう）を訪れて旅の締め括りとなった。



トネリコが映る水田の風景

最後に、新潟支部の皆様のお心の籠ったおもてなしに心から感謝申し上げ、来年は東京で本部主催となるので、一致協力して皆様の気持ちよくお迎えしたいと願っている。

## 警視庁本部見学ツアー 童心に返り楽しく学んだ75分

令和7年7月7日、トリプルセブンの七夕の日に、東京支部主催の見学会が開かれました。今回訪れたのは、偉容を誇る警視庁本部。その75分間見学ツアーに参加しました。

真夏日が続く中、熱中症の心配もあり、参加予定の方に直前キャンセルOKとのメールを差し上げましたが、23名全員が元気に参加。雨天歓迎・炎天決行の心意気が通じたのか、体的には、まあまあ凌ぎやすい一日となりました。

まずは二列に整列して簡単な荷物検査の後「ふれあいひろば警視庁教室」へ。クイズを交えて、警視庁の活動や防犯、防災などについて映像で学びます。個別モニターを通じてのクイズタイムには、皆さん真剣に回答。その場で回答数が集計されるのも、なかなか面白い。終了後には自分が何問正解したかなど、楽しい私語も聞かれました。

次は、警視庁創設(明治7年)以来の資料や、現在の活動を紹介する品々が展示された「警察参考室」。ここでは自由見学が許され、皆さん思い思いの場所でじっくり観覧。浅間山荘事件当時の穴の空いたやかんや長靴などを見ながら、当時の想い出話に花が咲きます。二・二六事件で使われた銃器、初代大

警視(警視総監)のハイセンスな制服も注目的。しかし一番人気は、自由に乗れる白バイの展示。皆さん次々にまたがり、記念撮影です。

最後の見学は、110番通報を受理し、指令を出す「通信指令センター」。20台の受理デスクの内、実際に通話中のデスクには黄色、緊急の場合には赤ランプが付きます。壁面の巨大モニターには、東京近辺のパトカーの全行動が映し出され、迫力満点!!撮影不許可なのが残念でした。

お勉強の後には、大人のランチタイム。ミッドタウン日比谷6F DRAWING HOUSE OF HIBIYA で、美しい屋上庭園を見ながら、旬の食材を活かしたお洒落なフルコースを楽しみました。

(支部委員 安東 桂子)



### 【アンケート報告】

2025年度初めにあたり、支部活動の参考にするために、支部会員全員にアンケートを行った。期間は1カ月、回答数は17であった。設問に対する回答の概略は次のようであった。

- (1) 支部委員には、数名の推薦があった。
- (2) チャレンジ奨学生については、原資の続く限り実施するという意見が多かった。原資の不安については、事業の廃止、寄付を募る、移行法人終了後の様子を見るなどの提案があった。  
講演会、見学会については、それぞれ具体的な推薦があり、早速実施の方向で計画している。  
「ともしび」については、特にインタビューやギャラリー、点描画、投稿特集が高評価であった。投稿特集のテーマやインタビューの提案もあった。支部広報紙としての工夫が必要との意見もあった。
- (3) 総会の形式については、総会・懇親会・講演会のセットの希望が多かった。今年の支部総会の伊能美智子会員のコンサートは、賛辞が多くあった。
- (4) 委員に対し、謝辞とともに支部会員を増やす努力も求められた。

貴重なご意見をありがとうございました。今後事業計画を立てるにあたり、参考にさせていただきます。

書記 坂上 栄美子

# Tomoshihi Gallery

クロスステッチ  
菊池 摩耶子  
(東京支部)



テーブルセンター  
お菓子のツリー

クロスは布の目を数えて刺します。細かい目の布を使うと緻密で立体的な作品ができるので、細かい目の布を選択しています。ハードですが完成した時の喜びは何ものにも代えがたいものです。

●JAUW会員の作品を紹介するページです。アート分野は問いません。どうぞご紹介ください。(※自薦・他薦どちらでも。)

tenbyouga

## 点描画

### 「希望」 心をつなぐ エスペラントは

植原 映子

群馬支部より転入させていただきました植原です。全国大会でお目にかかっていた方が何人もいらして、嬉しかったです。私の住む前橋市に、エスペラント(語)の世界的権威の方が住んでおられ、そのご縁で、私もエスペラントを始めました。エスペラントは、明治時代に創られた人工言語です。その作者ルドビコ・ザメンホフは、ポーランドの眼科医でしたが、少年時代はロシアの植民地で、公用語はロシア語、ドイツからの移民はドイツ語、地元民はポーランド語、そしてユダヤ系の人たちは土地のユダヤ語と、狭い地域に多言語が、互いに意思の疎通なく入り混じっておりまして。言葉が通じない事から、よく喧嘩も起こりました。少年ザメンホフは、意志が通ずれば争いは起こらないのではないかと考え、ついに、易しい新言語を作

りました。(高校時代ですが、仲間が面白がって、使ってくれた)ところが、彼の父は「そんな下らない事をやっつけないで、医学を勉強しなさい」と、彼をロシアへ送りました。医者になれば、ユダヤ人でも居住の自由が得られたからです。艱難辛苦の後、彼の発明した言語は「エスペラント(語)」と呼ばれるようになりました。「希望」という意味です。100年以上が経ち、今では100万人以上の人たちが、それで意思を通じさせています。ちなみに、「私は」は「mi」で、「あなたは」は「vi」。対応するbe動詞は、すべてest asです。

毎年世界大会も開かれ、私もフィンランドでの大会と、イタリア・トリノの大会に参加しました。特にトリノはあとから申し込んで、1人に参加したので、ホテルから会場のトリノ工科大学まで地下鉄で、最寄りの駅からおっかなびっくり歩いて行きました。会場に着いたら、「サルートン！」と挨拶されて、その嬉しかった事は、一生忘れられません。現在、「アジアの共通語をエスペラントで！」の動きもあります。使用文字はアルファベットですが、どの国語より平等・公平と思われるので、エスペラントがアジアの共通語になるといいなと望んでいます。

〈点描画〉は会員同士の気ままなチャットルームです。暮らしの中で感じたこと・出逢ったこと……を、ご投稿ください。送付先:tokyobranchn@jauw.org  
件名:点描画



新シリーズ

エールⅡ

自身で道を拓いてきた女性たちにエールを送る  
Yell

# 時空を越え 古今の生物と語る

東京大学新領域創成科学研究科 自然環境学専攻  
陸域環境学講座 准教授

博士(理学) 久保 麦野さん

2009年度大学女性協会一般奨励生に選ばれ、そして、2018年度には守田科学研究奨励賞を受賞された久保麦野さんを、東京大学柏キャンパス内の研究室にお尋ねしました。

## “虫めぐる姫君”の夢

ともかく物心ついたときから虫が好きでした。子どもの頃は浦和市(現さいたま市)に住んでいたのですが、我が家はマンションの一階で、小さな専用庭がありました。そこで昆虫や植物を飽くことなく観察していたのです。近所には進入禁止の工場跡地もあり、昆虫少年の友達とこっそり侵入し、虫探しや探検ごっこに熱中していました。虫や植物が、何でそんなに面白い形をしているのか？何でそんなにきれいな色をしているのか？そのWHYを知りたくてたまらなかつたのです。

父は臨床医ですが当時は基礎研究をしていて、マウスの実験室に連れて行ってもらったこともありました。そんな影響もあったかも知れません。小学生の頃にははつきりと、生き物のことを調べる研究者になりたいと思っていました。

## 中学の恩師により “進化”に開眼

両親の離婚に伴い東京に移転。国立大学の附属中学校に入学しました。そこで出逢ったのが堀内順治先生。生物の適応進化を生態学的な視点から生徒に考えさせる授業を行なっていて、本当に面白かった。当時、こうした研究ができる大学は限られていたので、東大を目指すことにしま

## 野生シカの生首をゆでる日々

東京大学では理学部人類学コースに進学。骨を使った研究と機能形態という考えに初めて触れました。四足歩行から二足歩行にいたるヒトの進化を学ぶ中で、形態研究に特に興味を感じるようになりました。しかし、私はやはり野生動物のことが研究したいと思い、大学院修士課程では、シカをはじめとする野生動物の採食生態学を専門とする、高槻成紀先生の研究室を希望しました。

高槻先生の計らいで全国各地から送られてくる大量のシカの生首を、さばいてゆでて骨にする毎日。個体数管理のために行なわれるシカの駆除では、年齢や性別、外測や食性分析が行なわれるので、非常に貴重なデータが得られます。高槻先生は、北に生息するシカはササが主食。南に行くほどササを含むイネ科の採食比率は減少し双子葉植物が増加することを実証したのです。こうした先生の研究とご指導の下、私は、イネ科植物を食べるシカほど歯の摩耗が速く、期待寿命が短いこと。そして摩耗速度に応じた歯の大型化が生じたことを、一連の研究として発表することができました。

## 化石が語る多くのこと

化石の研究にも興味があったので、博士課程から、化石人類の研究が専門の諏訪元先生の研究室に進学しました。当初は有蹄類化石の歯の微細な傷(マイクロウェア)の分析により、人類化石サイトの古環境を復元することがテーマでしたが、沖縄での発掘調査に関わったことで、絶滅した化石シカ(リュウキュウジカ)の研究が

始まりました。

当時の沖縄本島からは肉食動物の化石が出てこなかったのが、リュウウキュウジカには捕食者がいなかったと考えられます。すでに生態が分かっているニホンジカのデータを使っている高さから寿命を推定できるのではないかと考えました。すると、リュウウキュウジカは、長いものでは25歳くらい。野生のシカの平均寿命が10歳くらいですから、かなりの長寿といえます。そこで、現世のシカとリュウウキュウジカの歯の摩耗と寿命の関係が学位論文としてまとめ、無事、博士号をいただくことができました。

### 農学から理学へ

高槻先生は農学部、諏訪先生は理学部なので、学部を移籍したことになります。一番の理由はキュリオシティ・ドリブン（好奇心に導かれて）ですが、もう一つ要素があります。それは、両者の根本的な理念の違いです。

農学部には研究により人々の暮らしに貢献するという基本姿勢がありますが、理学部が目指すのは、あくまでも真理の追究。分かっていることを明らかにすることは、サイエンスとして十分に意義があるという私の考えと合致したのです。直ぐに役立つわけでもない研究に皆さまの税金を使わせていただいていることに、深く感謝しています。

### 著者に著作権のない世界

研究者として私が自分に課していることは、データに対して常にフェアであること。もう一つは、自身の成果は、必ず誰にでもアクセスでき

るものにする。当たり前のことですが、できていない人も、結構居るのです。

毎日ゆでて作ったシカの骨の標本は、500〜600体ほどになりませんが、今は全部東大博物館に寄贈しています。それと同時に、全ての標本に対する詳細なデータを本にまとめ、誰でも見られるようにしてあります。

論文も学会で発表するだけでなく、必ず専門家の査読(サドク)を経て、学術出版社などから出版していただきます。この際、執筆料はおろか著作権も一切放棄します。出典さえ明らかになれば、誰でも他者の成果を自分の研究に使うことができます。これが私たち研究者コミュニティの文化なのです。

### 朝から晩まで研究談議

夫は同学年ですが地学部。イベントなどで会うことがあり、互いの研究に興味を持ったことから親しくなり、院生の時に結婚しました。以来、マイクロウエアで恐竜の食性を特定



する様々な共同研究を続けています。子育ても家事も分担し、共に支え合う研究生活は何ものにも替えがたいもの。エッ？夫婦の会話ですか？朝から晩まで研究の話です。(笑)

### 三人の「麦野」

実は、この名前の発案者は私の両親ではなく、両親がカナダで出逢ったご夫妻です。カナダの麦畑からイメージされたというお嬢様の名を、両親が気に入りました。日本で生まれた娘に命名しました。ですから私は、二番目の麦野。ちなみにもう一人、カナダ生まれで三番目の麦野さんが居るのですが、お二人とも海外在住とのこと。名字ではなく名前の麦野は、多分、日本では私一人だと思います。

もちろん、印象的なこの名前が大好きなので、両親には、とても感謝しています。



麦色の原っぱを、虫を追いかけてまっしぐらに走ってきた少女も、今は三児の母。昨春、ご長女が同じ中学に入学したご縁で、母校で講演会が開催されたとのこと。そのときの生徒たちの感想文を筆者に見せながら「ほら、みんな、好きなことを何より大事にしたいとか、一生自分の興味を追求したいとか言ってくれているの」と、うつつら涙を浮かべながら、嬉しそうに語る久保麦野さん。『虫めぐる姫君』のWHYは、しっかり次世代に受け継がれたようです。

インタビュー：安東桂子

### PROFILE

#### 久保 麦野 (くぼむぎの)

- 1998年3月 東京学芸大学附属高等学校卒業
  - 1999年4月 東京大学理科二類入学
  - 2001年4月 東京大学理学部生物学科人類学コース進学
  - 2003年3月 同学卒業
  - 4月 東京大学大学院 農学生命科学研究科 修士課程進学
  - 2005年3月 同課程修了
  - 4月 東京大学大学院 理学系研究科 博士課程進学
  - 2006年3月 東京大学COE リサーチアシスタント採用(〜10年3月)
  - \*2009年度JAUW国内奨学生一般奨学生に選出
  - 2010年3月 同課程修了
  - 4月 東京大学総合研究博物館マクロ先端研究発信グループ特任研究員(〜13年3月)
  - 2013年4月 日本学術振興会特別研究員PD(東京大学総合研究博物館)(〜15年9月)
  - 2015年10月 東京大学大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻助教(〜20年3月)
  - \*2018年度JAUW守田科学研究奨励賞を受賞
  - 2020年4月 同上講師
  - 2024年2月 同上准教授
- (東京支部会員)



### 《補足》

国内奨学生一般奨学生(一社大女性協会「JAUW」が実施している奨学金制度。文部科学省の認可する大学の大学院に在籍し、将来リーダーとなり得る、学業人物共に優れた女子学生に対して表彰状と奨学金が贈られます。守田科学研究奨励賞/化学教育者故守田純子氏から遺贈された資金をもととする報奨制度。自然科学分野において優れた研究成果を挙げている、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満の女性科学者に、賞状と副賞が贈られます。\*二つの賞に選ばれたのは、2025年6月現在、久保麦野さんお一人です。

《ともしび》  
投稿募集

# 捨てる？ 捨てない？ 断捨離考



たかが物・されど思い出。  
捨てたいけれど捨てられない、誰もが陥るこのディレンマに助け船?!  
皆さまのアイデア、経験談など、どうぞ、お気軽にお寄せください。

**応募要領** テーマ：「捨てる？捨てない？断捨離考」  
原稿題目(見出し)：仮でもOK  
字数：800字前後  
記載事項：氏名(ふりがな)

締め切り：2025年(令和7年)12月25日  
掲載予定：「ともしび」第79号(2026年3月発行)

**宛先** (一社)大学女性協会 東京支部 ともしび投稿係  
〒160-0017 東京都新宿区左門町11-6 パトリシア信濃町テラス101  
Email: tokyobranch@jauw.org

所属支部、住所、連絡先(固定電話/携帯電話)を記載のうえ、郵送またはメールでご送付ください。

\*敬称略 \*括弧内は出身校

2025年度  
東京支部新入会員  
伊藤 真理 (東京大学大学院)  
近藤 美欧 (東京大学大学院)  
白岩 葉子 (実践女子大学)

## アンケートのお願い

東京支部では、2025年度全国セミナーに於いて家庭系廃食用油の再生・再利用について発表する予定です。つきましては、アンケートを実施して実態を把握し、環境問題について身近なところからの取組みを考えていきたいと思っています。

多くの皆様にアンケート調査にご協力頂きますようお願い申し上げます。

【アンケートの方法】

- 1. PCかスマホでWeb上から回答 ▶
- 2. アンケート用紙で回答  
郵送・FAX・メール添付返送



【お問合せ先】

(一社)大学女性協会東京支部  
【締切】8月20日

<https://forms.gle/E2K1j8Dt4fqRdgtD8>

## 水墨画教室

若干名募集中。初心者大歓迎です。お試し体験もできます。

・第2金曜日

午後1時半〜3時半

・JAUW事務所会議室

・講師 日高絹子(絹紅)会員

・連絡先 森川淳子

TEL(045)583-3430

## 映画クラブ

一緒に映画を見て「映画談義」を楽しむ、気さくな集いです。ぜひ一度、ご参加ください。

・隔月開催

・お問い合わせ 中山正子

Email  
jauw.tokyo@gmail.com

TEL(045)541-2481

## 2025年度 東京支部委員会

支部長 鷺崎千春

副支部長 森川淳子

書記 太田恵子 坂上栄美子

会計 菊地康子 森川淳子

支部委員 安東桂子 遠藤理枝

嶋田君枝 嶋田美恵子

進士多佳子 鈴木公江

宮下摩維子 宮原千佳子

支部担当理事 遠藤理枝

会計監査 木村和子 早川恵子

お悔やみ申し上げます

大島 杏子様

2025年2月2日 逝去

望月 浪江様

2025年3月14日 逝去

丸山 庸子様

2025年4月11日 逝去

ご寄付いただきました  
ありがとうございました

安東桂子 伊能美智子

植原映子 草薨美智子

坂上栄美子 中野眞佐子

103万4千円

\*敬称略

## 支部からの連絡

●住所等変更はご連絡ください。

●会費未納の方はお早目にお願  
いします。

●91歳以上の方の会費はお申し出  
により、免除されます。

●支部長までご連絡ください。

●中野区視覚障害者福祉協会支援  
のため使用済み切手を事務所ま  
でお送りください。

## 《編集後記》

梅雨を迎える前に一足飛びに真夏日が出てきたような日々。支部総会、全国総会、見学会と大きな行事が続いて、あっという間に締め切り日。編集者一同、目のまわる7月号最前線です。皆さまの興味を引く記事がありますでしょうか。お声をお寄せください。

(嶋田(美)、進士、安東、鈴木、中山)

